



兵 肢 協 会 報

発 行 所

〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1-1
兵庫県福祉センター内

兵庫県肢体不自由児者協会

T E L 078-241-9907
F A X 078-241-9908
E-mail:hyoshikyo@nifty.com
URL:<http://hyoshikyo.d.dooo.jp>

協会と出会えて

一般財団法人兵庫県肢体不自由児者協会 理事

大 畑 淳

この度、平成元年度障害者自立更生等厚生労働大臣表彰・更生援護功労者として厚生労働大臣から表彰状をいただき、皇居にて天皇皇后両陛下に拝謁の上お祝いのお言葉をいただきました。大変栄誉なことと、推薦いただきました兵庫県並びに当協会理事長様関係の皆様に感謝申し上げます。

私は平成13年4月から当協会にお世話をになりました。当時事務所は旧福祉センター2Fにあり、阪神淡路大震災で破壊された状態から立ち直ったところでしたが、建物のあちこちには爪痕が残っていました。それから18年が経過しました。その間様々な活動を通して多くの人に出会いたくさんの感動をいただきました。自立支援の立場というより、私が生きがいをいただいた年月でした。

平成22年には協会創立50年にちなんでの記念大会や記念誌発行、翌23年には建物の建て替えに伴っての事務所の引っ越し、法の改訂に伴つて的一般財團への移行など慌ただしく過ぎましたが、すべてが手探りの中の実施で多くの人の協力で事業が遂行できました。

當利を目的としない団体は運営面での資金繰りはいつの時代も苦労が多いのですが、当協会は、困ったときに不思議にも支援者からの申し出がありその都度助けていただきました。いい時代だったと言つてしまえばそれまでですが、協会の歴史が積み上げた底力であり、会員の皆さんとの持つ不思議な力ではないかと感謝しながらの活動と感謝の日々でした。

様々な活動と共にさせていただきました中で改めて感動しているのは「当事者である会員の皆さんを持つていてるパワー」です。そのパワーが、ふれあう誰もに感動を与える元気をいただきました。「頑張ってみます」という言葉が、支援者から返ってきます。

会員のAさん、小学生の時から協会の療育キャンプに毎年のように参加、熱心に訓練を継続、歩行はもちろん自力での移動は全くできなじ状

態が、協会創立50年の年の8月の療育キャンプでの時に片手つかまり立ちが出来たのです。生まれて28年での達成でした。その時お母さんは「これまで横に並んで顔を見ながら娘とおしゃべりができる。今まででは後からばっかりやつたから」と喜びを表現されました。

また、Bさんは、居住地域の小学校の車椅子講座で6年生の車椅子体験学習、車椅子を操作しながら「車椅子を使っての生活で困難を感じること」を具体的に話し、電動車椅子走行実演や車椅子の構造の説明などをしました。毎年の授業になっています。

その他小学校や県のユーバーサル社会づくりに沿つての「みんなの声かけ運動」協力者の各地で行われる研修会や各種団体の研修会それに大学校の講師として出かけて行っての講演。彼や彼女らのメッセージは参加者の心にストンと入つてくように思いました。

取り留めもない話になつてしましましたが重ねて協会で出会えた素晴らしい皆さんに感謝します。それに、これからも居住地域を中心に多くの人たちとの触れ合いを楽しみながら身近な支援活動を続けていきたいと思っています。ありがとうございました。



肢 体 不 自 由 児 者 協 会 は

一 肢 体 不 自 由 児 者 の 愛 護 思 想 の 普 及 、 療 育 等 に 関 し 必 要 な 事 業 を 行 い 、 肢 体 不 自 由 児 者 の 福 祉 の 増 進 を 図 る こ と を 目 的 と し 、 そ の た め に 、 肢 体 不 自 由 児 者 の 愛 護 思 想 の 普 及 、 肢 体 不 自 由 児 者 の 療 育 相 談 及 び 更 生 相 談 事 業 を 行 い 、 肢 体 不 自 由 児 者 の 福 祉 の 教 育 の 援 護 肢 体 不 自 由 児 者 の 激 励 慰 安 肢 体 不 自 由 児 者 に 関 す る 刊 物 等 の 発 行 及 び 幹 旋 日 本 肢 体 不 自 由 児 者 の 福 祉 に 関 す る 調 査 及 び 研 究 な ど を 行 つ て い ま す 。